



Fore Please / 世界ゴルフ

識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた
世界のゴルフ文化をお届けします。
今回は中国と韓国のゴルフ文化について。

シミュレーションゴルフが 盛んな韓国のゴルフ事情

最近、日本だけでなく世界各国で、若者のゴルフ離れが深刻な問題となっています。日本では、定年退職を迎えるゴルファーが仕事だけでなく、ゴルフも卒業するのではと騒がれていましたが、定年が65歳に延長されたり、ゴルフ場の環境もよくなり、少し上向いているように感じます。また、女性ゴルファーの数も増えており、それは喜ばしいことではあります。ただ、このまま若いゴルファーが増えないと、10年後の日本のゴルフ業界は大変な事になってしまいうでしょう。

世界トップレベルのプロ選手を輩出し、アジアゴルフ界において最強と言ってもよいほどのお隣の韓国に目を向けると、意外なことにインドアのシミュレーションゴルフが盛んです。通常のラウンドに比べて所要時間が少ないというメリットだけでなく、クラブからウェア、シューズまできちんと着替えて本番さながらにシミュレーションゴルフを楽しめるのも魅力です。また、オンラインでトーナメントも開催され、実際に年間1億円を稼ぐプロがいるのだとか……。日本での人気はイマイチですが、韓国には約3000ヶ所にシミュレーションゴルフがあるそうで、

若い人たちも楽しめる環境が整っています。仕事の後、お酒を飲みながら仲間とシミュレーションゴルフを楽しめる訳ですから、パソコンやスマホに夢中なデジタル世代にも取り組みやすく、それが実際のコースでプレーするきつかけになることも少なくないでしょう。

Vol.32

ゴルフとの
接し方

中国では小学生の 授業にゴルフを採用。

一方中国では、1980年頃から全国で730を超えるゴルフ場が整備されました。しかし、中央政府がゴルフ場の整理を行ったり、共産党員のゴルフ自粛の影響を受け、この1年で約70ヶ所のゴルフ場が営業中止に追いやられました。2015年の中国のプロツアーにおいては、そのような難しい状況下で、大会開催予定のゴルフ場が2週間前に変更されたり、プロアマ大会の時間が急遽変更されたりとかなり混乱していたようですが、大騒ぎにならないのは、国民性でしょうか……？

若い世代の ゴルフ環境を提供する 中韓の取り組み方



ゴルフビジネスの
プロフェッショナル
神野方仁 (じんの・みちひと)

1956年生まれ。テレビプランニング・インターナショナル株式会社・代表取締役社長。国内外のさまざまなスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary; www.tpi-j.co.jp/ceo_blog/

イラスト／ソリマチアキラ

くファミリーカーに乗ってく
る若い男女が確実に増えている
ようです。また余談ですが、
弊社の上海スタッフの小学1
年生の娘は、学校の特別授業
でゴルフを選択し、週1回45
分のレッスンを受けているそ
うです。当然、ゴルフの歴史
やルールを勉強し、実際に
ボールの打ち方の指導も受け
ます。年間授業料が8000
元(約13万円)で、クラブ5本
とボール6個のセットを
5000元(約8万円)で購入
して授業を受けるそうです。
小学1年生の特別授業に、
サッカーや音楽と同じように
ゴルフが取り入れられている
上海の私立小学校の取り組み
にもビックリします。

日本でも、「ゴルフをゴルフ
場でプレーする」という固定
観念を捨て、韓国や中国のよ
うに、若い世代や子どもたち
がゴルフに触れるチャンスを
を、その世代に合った形で
もつと提供していく必要があ
るのかもしれないね。